

令和6年度「わたしの避難計画」普及事業に関する調査業務委託（その1）
特記仕様書

1. 業務名称

令和6年度「わたしの避難計画」普及事業に関する調査業務委託（その1）

2. 契約期間

契約日 から 令和6年10月31日 まで

3. 業務目的

- ・「わたしの避難計画」の配布が完了した市町に居住する県民を対象に、「わたしの避難計画」の作成の有無等について調査し、認知度や作成状況を確認する。
- ・「わたしの避難計画」作成者と未作成者について、防災意識（早期避難意識等）の有無を比較する。

4. 業務内容

(1) 対象者の抽出

- ・対象となる3市1町在住の18歳以上の男女4,800名を対象とする。なお、対象となる各自治体や抽出数等については以下のとおりとする。

市町名	抽出数	想定回収数
東伊豆町	1,200名	400サンプル
沼津市	1,200名	400サンプル
伊東市	1,200名	400サンプル
牧之原市	1,200名	400サンプル
計	4,800名	1,600サンプル

- ・県は対象となる3市1町の選挙管理員委員会に依頼し、受託者は各選挙管理委員会と抽出日の予約などの対応を行う。

(2) 調査票の発送及び回収

調査項目は、選択肢形式の設問15問程度を想定（別添1を参照）。なお、調査票に二次元コードを掲載し、スマートフォンやパソコン等によるWeb回答も可能とする。

ア 郵送調査

- ・発送文、調査票、発送用封筒、返送用封筒の印刷及び封入封かん作業を行う。
- ・郵送に係る費用は委託費に含むものとする（返送は「料金受取人払」郵便とするため、日本郵便株式会社との協議を行うこと）。なお、調査票類の仕様は以下のとおり。

発送文	A4・両面・モノクロ×1枚
調査票	A3二つ折り・両面・モノクロ×1枚 A4・片面・モノクロ×1枚
発送用封筒	長形3号・クラフト
返送用封筒	長形3号・クラフト・シール付き

イ Web 回答

- ・受託者は作成した調査票に基づき、スマートフォンやパソコン等からアクセス可能な Web 回答システムを構築すること（サーバー等の必要な備品類は受託者が用意する）。
- ・Web ページでの回答に当たっては、回答途中で一時保存ができるように機能を整備すること。
- ・調査対象者が回答ページにアクセスしやすくするため、URL を二次元コード化し、調査票に掲載すること。
- ・郵送方式と Web 方式による同一人物からの有無を識別できるよう対応すること。
- ・Web 方式においては、郵送方式の調査票の「【すべての方】を対象とした設問」は、必須回答とし、その他の設問は、回答が必要な方が必須回答となるように、一部が未回答となり、集計時に無効とならないように工夫をすること。

(3) 調査票の点検・入力・集計

- ・返送された調査票を県へ往訪し、回収する。
- ・調査票を点検し、入力を行う。入力はベリファイ（二度打ち）を実施し、精度を高めること。
- ・調査結果の取りまとめとして、単純集計・クロス集計表を提出する。

(4) 打合せ協議

- ・打合せ協議は、必要に応じて随時行う。

5. 納品物

- (1) 入力データ
- (2) 自由記述入力データ
- (3) 集計表・クロス集計表データ
- (4) 集計結果のとりまとめ（考察）
- (5) 上記（1）～（4）のデータを格納した電子媒体（CD-R等）1枚

※（1）～（4）については、令和6年10月21日までに県の事前確認を受けること。

※（4）は、別添2と同等なものを考察したうえで作成すること。

6. その他

- (1) 成果品の帰属については、全て静岡県とする。
- (2) 本事業の実施により知りえた情報を他に漏らしてはならない。業務完了後も同様とする。
- (3) この仕様書に記載されているもののほか、必要事項については、県と受託者が協議のうえ決定する。

「わたしの避難計画」に関するアンケート

お寄せいただいた回答は、調査目的以外に使用することはありません。また、プライバシーの保護にも万全を期し、回答された皆様に迷惑をおかけすることは一切ありませんので、御協力の程、よろしくお願いいたします。

～ はじめにお読みください ～

1. 御回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」等を選んだ方は、その具体的な内容を御記入ください。
2. 回答方法について、郵送又はインターネットのどちらかをお選びください。

郵送での回答方法

- ・調査票（1～4ページ）を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

インターネットでの回答方法

- ・インターネットでの回答方法については、別紙を御覧ください。

3. 令和6年9月 日()までに投函又は御回答をお願いします。

- この調査について御不明な点は、以下にお問合せください。

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

静岡県 危機管理部 危機政策課 政策班

電 話 **054-221-2456** FAX 054-221-3252

メール boukei@pref.shizuoka.lg.jp

ID	0000	パスワード	XXXXXXXX
----	------	-------	----------

問1 【すべての方】 あなたの年代を教えてください。	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上
問2 【すべての方】 お住まいの家族構成を教えてください。	1. 一人暮らし 2. 配偶者と同居 3. 配偶者・子どもと同居 4. 子どもと同居 5. その他
問3 【すべての方】 あなたのお住まいはどちらですか。	1. 東伊豆町 2. 沼津市 3. 伊東市 4. 牧之原市
問4 【すべての方】 あなたは「わたしの避難計画」を知っていますか。	1. はい 2. いいえ
問5 【問4で「1. はい」を回答の方】 「わたしの避難計画」をどのように知りましたか。 (複数回答可)	1. 市町から「わたしの避難計画」が配布された 2. テレビCM 3. 新聞・折込チラシ 4. SNS・WEB広告 5. 街頭啓発(チラシ配布) 6. その他()
問6 【問4で「1. はい」を回答の方】 あなたは「わたしの避難計画」を作成しましたか。	1. はい(お住まいの市町から配布された紙で作成) 2. はい(県のWEBサイトで作成) 3. 作成していない
問7 【問6で「はい(1又は2)」を回答の方】 「わたしの避難計画」を作成したきっかけは何ですか？	1. 紙が家に届いた 2. 広告等で知った 3. 地域の行事(防災訓練等)で作成した 4. 今回のアンケート調査に興味を持った 5. その他()

<p>問 1 2 【問 9 で「2. 洪水」又は「3. 土砂災害」を回答の方】 お住まいの地域に大雨が降っている場合を想定してください。</p> <p>市町から「高齢者等避難」「避難指示」などの避難情報が発令されたとき、あなたはすみやかに行政が指定した避難場所や、安全な親戚・知人宅などの避難先へ避難しますか。</p>	<p>1. はい</p> <p>2. いいえ</p>
<p>問 1 3 【問 1 2 で「2. いいえ」を回答の方】 避難しない理由を教えてください。</p>	<p>1. 自宅の 2 階以上に避難するから</p> <p>2. 足腰が弱い等、誰かの手助けが必要だから</p> <p>3. どこに避難したら良いかわからないから</p> <p>4. 自宅に安全な場所はないが、避難所に行きたくないから その理由は ()</p> <p>5. 自宅に被害を受けたことがないので、大丈夫だと思うから</p> <p>6. その他 ()</p>
<p>問 1 4 【問 9 で「5. わからない」を回答の方】 災害リスクがわからない理由を教えてください。</p>	<p>1. 災害リスクを知る方法がわからないから</p> <p>2. 災害リスクを知るためにハザードマップ等を調べたが、わからなかったから</p> <p>3. 災害リスクを知る方法はわかっているが、調べるのが面倒だから</p> <p>4. その他 ()</p>

御協力ありがとうございました。



【インターネットでの回答方法】

- ①下記の URL 又は二次元コードにて専用の WEB サイトにアクセスしてください。

本調査専用 WEB サイト	https://www.
------------------	--------------



- ②下記 ID とパスワードを入力してログインしてください。

ID	0000	パスワード	XXXXXXX
----	------	-------	---------

- ③各設問文に従って御回答ください。サイト下部の「次へ」をクリックすると回答内容が自動的に保存され、画面を閉じた場合は再度ログインすると回答を再開できます。
- ④最後の設問まで回答すると回答確認画面が表示されます。「回答を送信」をクリックして完了です。

- ※「ID」と「パスワード」は、第三者によるログインを避けるためのもので、個人を特定するためのものではありません。」
- ※インターネット回答の場合は、令和6年9月 日（ ）の23時59分までに入力を完了してください。
- ※インターネットで回答された場合、調査票（紙）での回答は必要ありません。

危 政 第 号
令和 6 年 月 日

東伊豆町、沼津市、伊東市、牧之原市に
お住まいの県民の皆様

静岡県知事 鈴木 康友

「わたしの避難計画」に関するアンケートのお願い

日頃より、静岡県が行っている防災政策に御協力いただきありがとうございます。今後、発生が危惧される南海トラフ地震・津波や、激甚化・頻発化している水害・土砂災害から命を守るためには、リスクを正しく知り、適切なタイミングに、適切な場所へ避難することが重要です。そこで、県では、災害リスクに応じた個人ごとの避難計画「わたしの避難計画」の普及を推進しています。

この度、「わたしの避難計画」の配布が完了した3市1町（東伊豆町、沼津市、伊東市、牧之原市）にお住まいの県民の皆様を無作為抽出し、「わたしの避難計画」の取組状況や避難意識を把握するために、アンケート調査を実施いたします。つきましては、本調査への御協力をよろしく願いいたします。

担当課

静岡県危機管理部危機政策課
静岡県静岡市葵区追手町9番6号
電話番号：054-221-2456
F A X：054-221-3252

わたしの避難計画とは

わたしの避難計画とは、今後起こりうる大規模災害に備えて、一人ひとりが「いつ」「どこ」に避難するかを事前に整理する、静岡県独自の取組です。

「わたしの避難計画」

冷感車や虫除けなど
目につく場所に
貼っておこう！

大雨の時

河川氾濫

土砂災害

●避難のタイミング

●避難先

●情報収集手段 (●を塗りつぶす)

- 牧之原市LINE
- まきのほらTeaメール
- 静岡県防災アプリ
- その他

～作成ガイドで確認したことをメモしておこう～

河川氾濫による危険
(いずれか1つに☑をつけておく)

家屋流出のおそれあり
(家屋崩壊のおそれのある区域に居住)

**家屋流出のおそれはないが、
浸水のおそれあり**
(河川の浸水想定区域に居住)

危険なし

土砂災害による危険
(いずれか1つに☑をつけておく)

土砂災害のおそれあり
[] * [] で囲む
土砂災害警戒区域に住んでいる
土砂災害特別警戒区域に住んでいる

危険なし

自由記載欄 (持ち出し品や、家族や親戚の電話番号 など)

巨大地震に備え、1週間分の
水・食料・生活必需品の備蓄をしましょう！

巨大地震の時

自宅に津波が来る地域

自宅に津波が来ない地域

●避難のタイミング

強い揺れが収まったら**までに**
または
強い揺れを感じなくても
「津波注意報」や「津波警報」
「大津波警報」が発令されたら

●避難先

地震発生から

分以内に

に到着する

●避難のタイミング

強い揺れが収まったら

●避難先(集合場所)
※ 町内会で決められている場所

その後に判断

- 自宅が危険な場合は
指定避難所へ
- 自宅にいても安全な場合は
自宅待機

「わたしの避難計画」は各市より配布していますが、インターネット上で作成することもできますので、是非作成してみてください。

二次元コードを読み取り

または

静岡県 わたしの避難計画

で検索

【静岡県 HP】

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/1040812/1029856.html>

「わたしの避難計画」(Web版)
作成開始

「わたしの避難計画」普及事業に関する調査結果について（令和〇年度）

別添 2

調査期間：令和〇年●月●日～●月●日

調査対象：①対象市町

・わたしの避難計画の配布が完了した市町（15市町）のうち、賀茂、東部、中部、西部で各1市町を選定。

②サンプル抽出方法

・各市町毎、統計上必要な400サンプルを得るため、R4年度調査時の回収率約40%から逆算し、対象市町の選挙人名簿からランダムに1,000人ずつ、計4,000人を抽出。

回収方法：郵送または、Webでの回答

回収率：35.2%（1,409/4,000）

サンプル数

	A市	B市	C市	D市	計	年齢構成
(1) 10代 (18~19)	2	2	1	3	8	0.6%*
(2) 20代	7	8	14	11	40	2.8%*
(3) 30代	16	16	27	14	73	5.2%*
(4) 40代	40	37	43	50	170	12.1%
(5) 50代	74	86	87	74	321	22.8%
(6) 60代	81	89	85	79	334	23.7%
(7) 70代	124	64	89	95	372	26.4%
(8) 80代	30	9	36	12	87	6.2%
(9) 年代未回答	0	1	3	0	4	0.3%
計	374	312	385	338	1,409	100.0%
	27%	22%	27%	24%		

- ・回収したサンプル数は、目標としていた各市町400サンプルを下回った。
- ・市町毎のサンプル数は同程度。（25±3%の範囲内）
- ・10代～30代のサンプル数が少ない。
- ・回収率と認知率、作成率との間に相関がある。（意識の高い人ほど回答する傾向の現れと考えられる。）

年齢構成（N = 1,409）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.5%	0.6%	0.3%	0.9%	0.6%
(2) 20代	1.9%	2.6%	3.6%	3.3%	2.8%
(3) 30代	4.3%	5.1%	7.0%	4.1%	5.2%
(4) 40代	10.7%	11.9%	11.2%	14.8%	12.1%
(5) 50代	19.8%	27.6%	22.6%	21.9%	22.8%
(6) 60代	21.7%	28.5%	22.1%	23.4%	23.7%
(7) 70代	33.2%	20.5%	23.1%	28.1%	26.4%
(8) 80代	8.0%	2.9%	9.4%	3.6%	6.2%
(9) 年代未回答	0.0%	0.3%	0.8%	0.0%	0.3%
計	100%	100%	100%	100%	100%

- ・A市は、他の3市に比べて高齢者割合が高い。（60代以上62.9% ⇔ 他の3市は52~55%）

調査結果：

1-1 認知率 (N=1,409)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	12.5%
(2) 20代	0.0%	0.0%	7.1%	9.1%	5.0%*
(3) 30代	6.3%	18.8%	18.5%	7.1%	13.7%
(4) 40代	17.5%	16.2%	16.3%	14.0%	15.9%
(5) 50代	28.4%	16.3%	36.8%	27.0%	27.1%
(6) 60代	32.1%	12.4%	38.8%	31.6%	28.4%
(7) 70代	35.5%	34.4%	53.9%	44.2%	41.9%*
(8) 80代	33.3%	22.2%	61.1%	41.7%	44.8%*
(9) 年代未回答	0.0%	100.0%	66.7%	0.0%	75.0%
全体	29.1%	18.9%	39.0%	30.2%	29.8%

- ・ 相対的にC市で認知度が高く、B市で低い。
- ・ 70代、80代の認知度は高い。
- ・ 20代の認知度が低い。(サンプル数が40と少ないため参考程度。)

1-2 認知経路 ※複数回答 (N=447)

	A市	B市	C市	D市	計	到達率※
1 市町から配布された	68.1%	66.7%	86.8%	84.0%	78.3%	24.8%*
2 テレビCM	4.2%	1.6%	0.6%	2.8%	2.2%	0.7%
3 新聞・折込チラシ	6.7%	6.3%	3.1%	0.9%	4.0%	1.3%*
4 SNS・WEB広告	5.9%	6.3%	2.5%	1.9%	3.8%	1.2%*
5 街頭啓発(チラシ配布)	4.2%	1.6%	0.0%	1.9%	1.8%	0.6%
6 その他	10.9%	17.5%	6.9%	8.5%	9.8%	3.1%
計	100%	100%	100%	100%	100%	31.7%

※その経路で認知した人数÷全サンプル数(1,409)

- ・ 市町からの配布によって認知した人が圧倒的に多いが、配布されても75%の人は見ていない。(認知されず)
- ・ わたひなの広報(2テレビCM~5街頭啓発)により、3.8%の県民に認知された。
- ・ 「新聞・折込みチラシ」と、「SNS・WEB広告」には大きな差が無い。
- ・ 街頭啓発は他の手法に比べ露出(配布数)が少ない割に効果が高い。(TVCMと同程度)
- ・ 「その他」の詳細 ※()内は件数
 防災訓練(7)、町内会・自主防(7)、今回の調査(4)、市から(3)、県HP(2)ほか

2-1 作成率 (N=1,409)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	2.5%
(3) 30代	0.0%	6.3%	14.8%	7.1%	8.2%
(4) 40代	5.0%	5.4%	7.0%	4.0%	5.3%
(5) 50代	6.8%	2.3%	16.1%	9.5%	8.7%
(6) 60代	7.4%	4.5%	22.4%	7.6%	10.5%
(7) 70代	16.1%	9.4%	36.0%	14.7%	19.4%
(8) 80代	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	24.1%
(9) 年代未回答	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	25.0%
全体	8.8%	4.8%	23.9%	9.8%	12.3%

*

- ・ R 4 年度調査（津波浸水域に限った調査）の結果は **22.1%**であった。（N=1,338）
- ・ 市町毎の作成率の差が顕著。
 - 浸水域外人口の多寡が影響している可能性があるが、普及方法の違い等について追加検証を行う。
- ・ 認知度と作成率の間に相関がある。
- ・ 50代の認知度は40代以下よりも高いが、作成率は40代以下と同程度。→ 勤労世代が作成していない。

2-1 (2) わたひなを知っていた人の作成率 (N=420)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%
(3) 30代	0.0%	33.3%	80.0%	100.0%	60.0%
(4) 40代	28.6%	33.3%	42.9%	28.6%	33.3%
(5) 50代	23.8%	14.3%	43.8%	35.0%	32.2%
(6) 60代	23.1%	36.4%	57.6%	24.0%	36.8%
(7) 70代	45.5%	27.3%	66.7%	33.3%	46.2%
(8) 80代	0.0%	0.0%	81.8%	60.0%	53.8%
(9) 年代未回答	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%
全体	30.3%	25.4%	61.3%	32.4%	41.2%

- ・ 勤労世代の作成率が大幅に向上している。（年代による違いが少なくなった）
- ・ ただし、認知経路のほとんどが「自宅に届いた」であることから詳細を確認する必要がある。（下記）

2-1 (3) 作成率 (家に届いた認識のある方) (N = 350) *

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%
(3) 30代	0.0%	0.0%	80.0%	100.0%	62.5%
(4) 40代	33.3%	40.0%	50.0%	33.3%	40.0%
(5) 50代	17.6%	18.2%	46.4%	38.9%	33.8%
(6) 60代	35.3%	50.0%	58.1%	27.3%	43.4%
(7) 70代	55.6%	26.7%	68.9%	34.3%	51.1%
(8) 80代	0.0%	0.0%	80.0%	60.0%	54.3%
(9) 年代未回答	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%
全体	37.0%	26.2%	63.0%	34.8%	45.4%

- ・全世帯に配布したが、25% (350/1,409) の住民しか配布されたことを認識していない。
(内訳：A市21.7%、B市13.5%、C市35.8%、D市26.3%)
- ・わたひなが届いた事を認識した場合には、半数近くの人々が作成する。
- ・認識してもらうための配布方法に工夫が必要。(配布した後訓練で使う、事前に周知してから配布、等)

2-1 (4) 作成率 (広報・広告で知った方) (N = 97)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3) 30代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
(4) 40代	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
(5) 50代	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
(6) 60代	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	21.4%
(7) 70代	0.0%	0.0%	100.0%	25.0%	25.0%
(8) 80代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(9) 年代未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	8.0%	20.0%	60.0%	12.5%	20.8%

- ・わたひなの広報により3.8%の県民に認知され(上記1-2)、うち20.8%の方の計画作成に繋がった。
- ・ただし、「わたひな」を各戸配布する方法に比べ、作成の動機付け効果は低い。(作成率：45.4% > 20.8%)
→ プル型(HPに来てもらう)でなくプッシュ型(各戸配布)の事業手法が適切であることが確認できた。
- ・ちなみに、SNS・Web広告で認知した人(N=11)の35%が作成しており、うち67%はWeb版で作成。
→ SNS・Web広告からWeb版へのリンクを貼ることによる誘導効果が確認できた。

2-2 作成率 (リスク別) ※複数回答 (N = 1,788)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 作成した(津波)	6.4%	1.4%	22.6%	10.7%	13.6%
(2) 作成した(洪水)	6.7%	6.9%	23.1%	6.1%	15.0%
(3) 作成した(土砂災害)	8.1%	3.8%	27.3%	7.2%	6.7%*
(4) 作成した(どのリスクもない)	2.5%	4.9%	21.6%	9.2%	9.6%
(5) 作成した(リスクが分らない)	0.0%	5.6%	5.9%	6.7%	4.7%

- ・全体の作成率 12.3% (上記2-1) に比べ、土砂災害のリスクを認識している人(N=449)の作成率が低い。
※どのリスクもない人(N=293)よりも作成率が低い。
- ・土砂災害のリスクを認識している人が「作成しない理由」 ※()内は件数 ※65人が回答
既に避難行動を分っている(36)、面倒(8)、いつか作るつもり(7)、作り方が分らない(4)ほか
- ・下記5-3(1)早期避難意識(土砂災害)の結果を併せて考えると、自宅に留まるリスクと避難時に被災するリスクを比較した結果避難しないことを決めている人が多い事も、作成率が低い要因となっている可能性がある。

2-3 作成率（家族構成別）（N=1,409）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) ひとり暮らし	3.7%	2.6%	20.0%	5.6%	8.0%
(2) 配偶者と同居	11.3%	4.5%	33.6%	11.4%	14.9%
(3) 配偶者・子どもと同居	9.5%	7.4%	21.8%	9.0%	12.8%
(4) 子どもと同居	0.0%	7.7%	13.0%	11.8%	9.1%
(5) その他	5.9%	1.6%	19.4%	9.2%	9.3%

- ・子どもと同居しているからといって、作成率が特別高いわけではない。
- ・ひとり暮らしだからといって、作成率が特別低いわけでもない。

2-3 (2) 一人暮らし世帯の作成率（年代別）（N=113）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3) 30代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(4) 40代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(5) 50代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(6) 60代	0.0%	5.0%	11.1%	16.7%	6.8%
(7) 70代	10.0%	0.0%	25.0%	0.0%	9.1%
(8) 80代	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	23.1%
(9) 年代未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	3.7%	2.6%	20.0%	5.6%	8.0%

- ・「高齢者のひとり暮らし世帯の作成率」は、予想に反して相対的に高い。
- 家族構成にかかわらず、若年層や勤労世帯へのケアが必要。

2-4 (1) 作成率（媒体別）（N=1,409）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 紙で作った	7.6%	3.8%	23.2%	8.9%	11.3%
(2) WEBで作った	1.4%	1.0%	0.8%	0.9%	1.0%
全体	8.9%	4.8%	24.0%	9.8%	12.3%

- ・わたひなを作成した人のうち、WEBで作成する人は10%程度。（14/173）

2-4 (2) 作成者のうち、WEBで作った人の割合（年代別）（N=14）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代（18~19）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3) 30代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	16.7%
(4) 40代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%
(5) 50代	40.0%	0.0%	0.0%	14.3%	10.7%
(6) 60代	0.0%	25.0%	10.5%	0.0%	8.6%
(7) 70代	5.0%	16.7%	0.0%	14.3%	5.6%
(8) 80代	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	4.8%

- ・勤労世代の方が比較的WEBで作成している。（サンプル数が少ないので参考程度）

3 作成したきっかけ (N = 167)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 家に届いたから	32.3%	40.0%	49.4%	37.5%	43.1%
(2) 広告等で知ったから	3.2%	6.7%	0.0%	6.3%	2.4%
(3) 防災訓練等の行事	35.5%	40.0%	46.1%	46.9%	43.7% *
(4) 今回のアンケート	22.6%	13.3%	4.5%	9.4%	9.6% *
(5) その他	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
計	100%	100%	100%	100%	100%

- ・ 防災訓練が作成のきっかけとなっている。
→ 今後、防災訓練での活用促進がテーマとなる。
- ・ 今回の調査がきっかけとなった方も一定数いる。

4 作成しない理由 (N = 237)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 既に分っているから	70.8%	62.8%	42.9%	60.6%	59.9%
(2) 面倒だから	4.2%	16.3%	3.6%	10.6%	8.0%
(3) 作り方が分らない	5.6%	4.7%	12.5%	10.6%	8.4% *
(4) いつか作成するつもり	12.5%	11.6%	32.1%	12.1%	16.9% *
(5) その他	6.9%	4.7%	8.9%	6.1%	6.8%
計	100%	100%	100%	100%	100%

- ・ 「作り方が分らない」と回答した人は、作成意思がある可能性が高い。
→ わたひな普及員を活用した作成講座の開催が有効と考える。
- ・ いつか作成するつもりの人には、作るタイミングを与えることが有効と考える。（防災訓練、Web広告等）

5-1 (1) 早期避難意識率 (津波) (N=641)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
(2) 20代	100.0%	100.0%	83.3%	85.7%	88.5%
(3) 30代	100.0%	100.0%	100.0%	90.0%	97.7%
(4) 40代	83.3%	100.0%	84.4%	77.8%	84.3%
(5) 50代	86.5%	75.0%	85.2%	93.3%	85.8%
(6) 60代	92.7%	70.6%	83.3%	91.3%	85.8%
(7) 70代	87.5%	78.6%	86.0%	92.3%	86.9%
(8) 80代	61.5%	0.0%	75.0%	60.0%	69.6%
(9) 未回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%
全体	86.7%	80.8%	85.0%	88.4%	85.6%

549/641

- ・ R4年度調査結果 (80.8% : N=1,338) よりも高い意識率が得られた。
- ・ 市町毎の作成率に大きな差は無く、わたひなの作成率 (上記2-1) との相関はない。
(ただし、下記のとおりわたひな作成者の方が作成率が高い)
- ・ ペットを連れて避難できる環境の整備 (または受入れ可能であることを周知) が必要。
- ・ 「避難しない理由」 ※ () 内は件数 ※82人が回答
自宅にいても大丈夫と思っている (24)、避難先が不明 (12) 手助けがないと逃げられない (11)
津波到達までに逃げ切れない (10)、その他 (25)

(その他の理由)

同居家族が避難できないから (4)、ペットがいるから (4)、津波高・到達時間などを見て判断する (3)

5-1 (2) 「わたひな」を作成した人の早期避難意識率 (津波) (N=92)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
(3) 30代	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
(4) 40代	100.0%	0.0%	66.7%	100.0%	83.3%
(5) 50代	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
(6) 60代	100.0%	0.0%	83.3%	100.0%	87.5%
(7) 70代	87.5%	100.0%	90.5%	100.0%	91.2%
(8) 80代	0.0%	0.0%	86.7%	100.0%	87.5%
(9) 未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	92.3%	100.0%	89.1%	100.0%	91.3%

(参考) 未作成者のみの早期避難意識率 86.3% 80.6% 83.8% 86.9% 84.7%

- ・ わたひなの事業効果が確認できた。(未作成者との比較で+6.6ポイント)
- ・ わたひなを作成することで、地震・津波 A P 2023の目標「9割減災」を達成できる可能性がある。
→ 今後は、いかに作成率を上げるかに注力する。

5-2 (1) 早期避難意識率 (洪水) (N=341)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	66.7%
(2) 20代	50.0%	33.3%	50.0%	0.0%	36.4%
(3) 30代	50.0%	0.0%	53.8%	0.0%	50.0%
(4) 40代	50.0%	20.0%	60.9%	71.4%	55.3%
(5) 50代	64.7%	37.5%	59.5%	87.5%	63.9%
(6) 60代	27.8%	28.6%	64.1%	83.3%	52.9%
(7) 70代	65.2%	25.0%	60.0%	73.3%	62.2%
(8) 80代	35.7%	0.0%	66.7%	100.0%	55.2%
(9) 未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	50.0%	31.0%	60.7%	77.6%	57.8%

- ・市町毎の早期避難意識率の差が顕著。(土砂災害(下記5-3(1))同様、D市の意識率が高い)
- ・市町毎のわたひなの作成率(上記2-1)との相関はない。
(ただし、下記のとおりわたひな作成者の方が作成率が高い)
- ・「避難しない理由」 ※()内は件数 ※126人が回答
 - 自宅の2Fへ行くから(60)【正しい場合が多い】、自宅にいても大丈夫だと思う(18)
 - 避難所へ行きたくないから(9)、手助けがないと避難できない(8)、避難先が不明(8)その他(23)
(その他の理由)
 - ペットがいるから(2)、状況を見て判断(1)、この場を離れたくない(1)、高齢者が多い地区なので自分達だけ避難することはしない(1)、敷地を高くしている(1)ほか
- ・避難しない人のうち「自宅の2Fに行く」人(60人)を加えた避難意識率は75.4%。

5-2 (2) 「わたひな」を作成した人の早期避難意識率 (洪水) (N=54)

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
(3) 30代	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
(4) 40代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	33.3%
(5) 50代	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	55.6%
(6) 60代	0.0%	0.0%	63.6%	0.0%	63.6%
(7) 70代	100.0%	0.0%	53.8%	0.0%	60.0%
(8) 80代	0.0%	0.0%	57.1%	100.0%	62.5%
(9) 未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	85.7%	0.0%	54.8%	100.0%	59.3%

(参考) 未作成者のみの早期避難意識率 46.4% 33.3% 62.6% 76.1% 57.3%

- ・一見すると「わたひな」の事業効果が無いように見えるが、「自宅の2Fに行く」を加えた避難意識率と比較すると、作成者では85.2%、わたひな未作成者では73.3%となり、+11.9ポイントのわたひな事業効果が認められる。

5-3 (1) 早期避難意識率（土砂災害）（N=449）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
(2) 20代	40.0%	25.0%	0.0%	0.0%	30.0%
(3) 30代	55.6%	40.0%	0.0%	100.0%	50.0%
(4) 40代	62.5%	37.0%	0.0%	90.9%	53.6%
(5) 50代	46.5%	37.5%	0.0%	66.7%	45.5%
(6) 60代	34.1%	42.6%	100.0%	76.9%	44.1%
(7) 70代	44.8%	50.0%	25.0%	61.9%	48.7%
(8) 80代	16.7%	14.3%	0.0%	0.0%	15.0%
(9) 未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	43.0%	39.9%	18.2%	71.0%	45.4%

*

- ・市町毎の早期避難意識率の差が顕著。（洪水(上記5-2(1)同様、D市の意識率が高い）
- ・市町毎のわたひなの作成率（上記2-1）との相関はない。
（ただし、下記のとおりわたひな作成者の方が作成率が高い）
- ・「避難しない理由」 ※（）内は件数 ※206人が回答
 - 自宅の2Fへ行くから (49) 【誤った行動】、自宅にいても大丈夫だと思う (52)、避難所へ行きたくないから (33)、避難先が不明 (8)、手助けがないと避難できない (7)、その他 (57)
 - （その他の理由）
 - 避難場所までの道のりが危険 (13)、避難場所までが遠い (9)、避難場所が安全でない (3)
 - ペットがいる (3)、同居家族が避難できない (2)、自宅を離れたくない (2)、状況を見て (2)
 - ほか
- ・「避難しない理由」 ※（）内は件数 ※9人が回答
 - 避難場所まで遠い (8)、行くまでが危険 (7)、ペットがいる (6)、知らない人がいる (3) ほか
- ・避難所までの距離、避難所の安全性（立地？）の違いが市町毎の率の差に表れている可能性がある。（今後検証）

5-3 (2) 「わたひな」を作成した人の早期避難意識率（土砂災害）（N=37）

	A市	B市	C市	D市	全体
(1) 10代 (18~19)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 20代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3) 30代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
(4) 40代	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
(5) 50代	60.0%	100.0%	0.0%	100.0%	71.4%
(6) 60代	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
(7) 70代	100.0%	60.0%	50.0%	0.0%	66.7%
(8) 80代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
(9) 未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	77.8%	66.7%	33.3%	57.1%	67.6%

（参考）未作成者のみの早期避難意識率 39.3% 38.5% 10.0% 72.6% 43.2%

- ・わたひなの事業効果が確認できた。（未作成者に比べ+26.2ポイント）
- ・わたひなを作成していない人に多く見られた、「自宅の2Fに行く」、「自宅にいても大丈夫」といった誤った考えが、わたひなを作成することで是正されたと考えられる。
- ・「避難しない理由」 ※（）内は件数 ※9人が回答
 - 自宅の2Fへ行くから (3) 【誤った行動】、自宅にいても大丈夫だと思う (1)、避難所へ行きたくないから (2)、避難先が不明 (0)、手助けがないと避難できない (2)、その他 (2)
 - （その他の理由）
 - 避難場所までの道のりが危険 (1)、避難場所が安全でない (1)